

弥生時代木製品研究における立野遺跡の位置づけ

～実物資料を観察しながら～

仲辻 慧大（紀伊風土記の丘）

1. はじめに

平成22年、近畿自動車道紀勢線事業に伴い、すさみ町所在の立野（たちの）遺跡の発掘調査が公益財団法人和歌山県文化財センターによって行われました。調査では、県内でも最古の一群といえる弥生時代前期の土器に加え、数多くの木質遺物が出土しました。木質遺物には木製品のほかに、加工途中である未製品や加工前の原材も含まれており、立野遺跡が紀南における弥生時代開始期の木製品の生産を行っていた遺跡であることが分かりました。

夏期企画展では、この立野遺跡からの出土品を中心に展示を行い、あわせて県内から出土した原始・古代における木質遺物の紹介を行います。今回の発表では、企画展に先立ち、立野遺跡の調査成果を振り返るとともに立野遺跡がもつ意義について考えたいと思います。

2. 弥生木製品研究の概略（山田2012を参考に作成）

1943年…奈良県唐古・鍵遺跡 弥生研究として 植物学者との協業で用材の検討

1947年…静岡県登呂遺跡の調査 スギを多用する弥生後期

1960年代～…大規模開発に伴う調査の増加 低湿地遺跡の調査

古文化財の科学的研究の深化 植物遺体の研究

町田章1975 根木1976 山田1979 などの生産面からの研究

1980年代～…木質遺物への注目が高まる シンポジウム・集成事例の増加 木器集成図録

近年…出土木器研究会2009 個別の器種に対する研究の深化（詳細は割愛）

材質のデータベース化（山田編2012）

3. 立野遺跡の調査成果（公益財団法人和歌山県文化財センター2013『立野遺跡』などを参考）

・遺構302…弥生時代前期中段階の自然流路 第3層から多量の遺物

弥生土器1011点 突帯文土器9044点 石器443点 【表1～4】

木製品168点 アミカケは弥生の文化的要素が濃いもの

工具6点（伐採斧柄3点、加工斧柄1点、くさび状木製品1点）

農具49点（平鋤31点、広鋤8点、泥除4点、刈払具3点、堅杵2点、農具柄1点）

紡織具1点（布送具1点）

狩猟具8点（弓8点）

食事具 7 点 (堅杓子 3 点、匙 4 点)

容器点 (舟形容器 27 点、鉢状容器 4 点、浅鉢状容器 4 点、皿状容器 9 点)

建築部材 21 点 (梯子 1 点・柱材 1 点・その他柱状部材類 19 点)

不明製品 9 点 (琴状 1 点、俎状 1 点、弓状 1 点、木錘状 3 点、その他 3 点)

木材 23 点 (丸太材 4 点、半裁材 5 点、割材 1 点、板材 10 点、板状材 3 点)

◇土器からみた年代

弥生土器壺

多数出土→口縁部短い 体部の境明瞭 (沈線による区画文様) …前期中段階

※口縁部が長くなったものや削出突帯上に多条沈線…新段階

木の葉文…古段階

→立野遺跡は前期中段階中ほどの時期

◇木器の特徴 ～製品を観察しながら～

- ・製品と自然木 双方に共通する樹種 マキ属・アカガシ亜属・クスノキ
自然木にしかみられない樹種 スダジイ・ツブラジイ
製品に特定した樹種選択 平鋏 (イスノキ) 弓 (イヌガヤ)
杵 (ツバキ) ヒノキ板材
- ・原材→未製品→製品 への流れが追える …鋏 容器
- ・特異な器種 クスノキ横木取りの舟形容器
- ・県内最古の御坊市堅田遺跡の木製品は新段階なので立野の木質遺物が県内最古

☆立野遺跡の特徴点

- ・弥生土器壺と突帯文土器深鉢の比率 (川崎 2013) …高杯の欠如 突帯文土器の優位性
- ・石器の組成比や材質にみる特異性 (仲原 2013、和文セ 2013) …鋏の僅少さ
金山産サヌカイト
- ・紀南における弥生前期 + 良好な木質遺物の多量出土

まとめ

☆集落を構成するのは弥生文化を受け入れた縄文系の人々

☆紀南への弥生文化の伝来は大阪湾ではなく紀淡海峡を通じたルート

☆木製品の生産に特化した遺跡であり、製品の種類によって適当な材質の木を選択

参考文献

- 秋山浩三 1993 『大足』の再検討『考古学研究』40-3、考古学研究会
- 飯塚武司 2001 「農耕社会成立期における木工技術の伝播と変容」『古代学研究』155号、古代学研究会
- 飯塚武司 2003 「仮器・宝器になった木製容器」『法政考古学』第30集、法政史学会
- 石川ゆずは 2005 「弥生時代中期～古墳時代前期にかけての木製容器—小型容器・刳物桶を中心に」『富山県考古学研究』8号
- 伊藤友久 1999 「建築部材」『榎田遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 37
- 芋本隆裕 1986 「甲と楯」『弥生文化の研究』9、雄山閣
- 上原真人 1991 「農具の変遷—鋏と鋤—」『季刊考古学』37、雄山閣
- 上原真人 2000 「農具の変革」『古代史の論点』1 環境と食糧生産 小学館
- 上原真人 2013 「<木器集成図録>の目から見た立野遺跡出土木器」『公開シンポジウム農耕社会成立期の木工』—立野遺跡を考える—発表資料集 公益財団法人和歌山県文化財センター
- 追川吉生 1999 「江戸出土漆器椀の形態分類」『江戸の物流』江戸遺跡研究会第12回大会発表要旨江戸遺跡研究会
- 岡田文男 1995 『古代出土漆器の研究—顕微鏡で探る材質と技法—』京都書院
- 角山幸洋 1983 「日本の織機」『講座日本技術の社会史』第3巻
- 兼康保明 1985 「田下駄」『弥生文化の研究』5 雄山閣
- 川崎雅史 2013 「立野遺跡の発掘調査と土器」『公開シンポジウム農耕社会成立期の木工』—立野遺跡を考える—発表資料集 公益財団法人和歌山県文化財センター
- 元興寺仏教民俗資料研究所 1977 『出土木製遺物の実態調査報告書—中部・四国・九州地方』
- 元興寺仏教民俗資料研究所 1976 『出土木製遺物の実態調査報告書—近畿・中国地方』
- 元興寺仏教民俗資料研究所 1978 『出土木製遺物の実態調査報告書—北海道・東北・関東地方』
- 工楽善通 1989 「木製高杯の復原」『古代史復原』5—弥生人の造形—
- 黒崎直 1976 「古墳時代の農耕具—ナスビ形着柄鋤を中心として」『研究論集 III』奈良国立文化財研究所
- 黒崎直 1985 「くわとすき」『弥生文化の研究』5 道具と技術 I、雄山閣
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1994 『古代における農具の変遷—稲作技術史を農具から見る—』静岡県埋蔵文化財調査研究所設立10周年記念シンポジウム・第4回東日本埋蔵文化財研究会
- 出土木器研究会 編 2012 『木・ひと・文化～出土木器研究会論集～』
- 末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎 1943 『大和唐古彌生式遺跡の研究』京都帝国大学
- 田代克己 1973 「まとめ」『瓜生堂遺跡 II』、瓜生堂遺跡調査会
- 田代克己 1986 「木器をつくるむらつくらないむら」『弥生文化の研究 7 弥生集落』、雄山閣
- 丹野拓 2013 「立野遺跡の木製品」『公開シンポジウム農耕社会成立期の木工』—立野遺跡を考える—発表資料集 公益財団法人和歌山県文化財センター
- 中原計 2005 「出土状況からみた弥生時代木製品の製作」『古代文化』58-II、古代学協会
- 仲原知之 2013 「立野遺跡の石器」『公開シンポジウム農耕社会成立期の木工』—立野遺跡を考える—発表資料集 公益財団法人和歌山県文化財センター
- 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録—近畿古代篇—』奈良国立文化財研究所史料第27冊
- 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録—近畿原始篇—』奈良国立文化財研究所史料第36冊
- ニュー・サイエンス社 1988 『特集 弥生時代の木製品』考古学ジャーナル 292号
- 根木修 1976 「木製農耕具の意義」『考古学研究』22-4、考古学研究会
- 禰宜田佳男 1999 「伐採石斧の柄」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室
- 橋本正博 2001 「石川県八日市地方遺跡出土の鳥形木製品」『花園大学考古学研究論叢』花園大学考古学研究室 20周年記念論集刊行会

- 樋上昇 1989「木製農耕具の地域色とその変遷—勝川遺跡出土品を中心として—」『年報昭和 63 年度』愛知県埋蔵文化財センター
- 樋上昇 2002「『生活の道具』と『王の所持品』～木製品から見た生産と流通～」、『川から海へ—一人が動く、モノが運ばれる—』一宮市博物館特別展示図録
- 樋上昇 2003「出土木製品から見た本川遺跡—古墳前・中期集落の階層性について—」『本川遺跡』愛知県埋蔵文化財センター。
- 樋上昇 2005「木製品専門工人の出現と展開上・下」『古代学研究』168・169号古代学研究会
- 福岡市埋蔵文化財センター1983『木製農具について』埋蔵文化財研究会第14回研究集会
- 穂積裕昌 1994「古墳時代の湧水点祭祀について」『考古学と信仰』同志社大学考古学シリーズ VI
- 穂積裕昌 1999「井泉と誓約儀礼」『考古学に学ぶ』同志社大学考古学シリーズ VII
- 埋蔵文化財研究会 1996『古代の木製食器—弥生期から平安期にかけての木製食器—』第39回埋蔵文化財研究集会
- 増川宏一 2001「水橋金広・中馬場遺跡出土の双六盤について」『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
- 町田章 1975「木工技術の展開」『古代史発掘 4 稲作の始まり』講談社
- 町田章 1979「木器の製作と役割」『日本考古学を学ぶ』2 原始古代の生産と生活、有斐閣
- 村上由美子 2002「木製楔の基礎的論考」史林 54 史学研究会
- 山口謙治 2000「弥生時代の木製農具—韓国新昌洞遺跡出土農具から」『韓国古代文化の変遷と交渉』伊世英教授停年記念論叢刊行委員会
- 山田昌久 1979「木製遺物分析に際しての覚え書き」『駿台史学』48号
- 山田昌久 1993『日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史』植生史研究特別第1号、植生史研究会
- 山田昌久編 1997~2006『人類誌集報 1997~2006』東京都立大学考古学報告 2~11、人類誌調査グループ
- 山田昌久 2000「縄文の鋳鋤を使い続けた人々」『東北学』2 東北文化研究センター
- 山田昌久 2002「組合せ式針葉樹製鋳の再検討」『考古学ジャーナル』486号、ニュー・サイエンス社
- 山田昌久 2006「弥生時代平野スギ大径木利用構想—静岡県登呂遺跡出土材からの用材法復原—」特別史跡登呂遺跡再発掘調査報告書(史前化学分析・総括編)、静岡市教育委員会
- 山田昌久 2012「木質遺物研究史」『木の考古学 出土木製品用材データベース』
- 渡辺昇 1983「集落ごとの木器保有形態」『関西大学考古学研究室開設 30 周年記念考古学論叢』関西大学考古学研究室

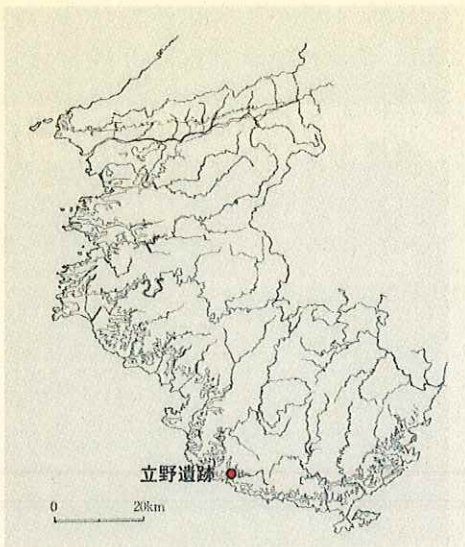


図1 立野遺跡の位置 (川崎 2013)



図2 立野遺跡と周辺の遺跡分布 (川崎 2013)

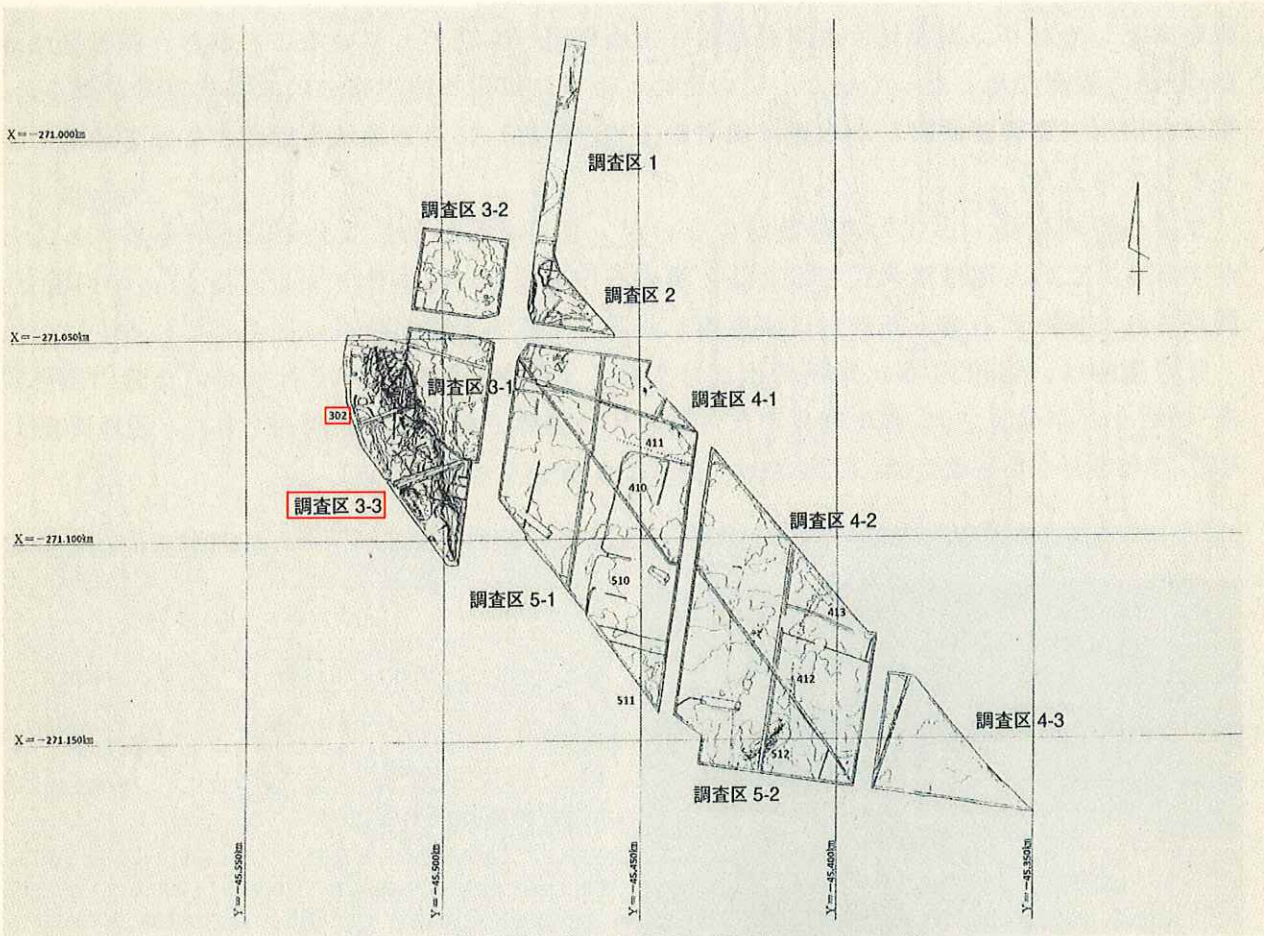


図3 立野遺跡と調査区配置 (川崎 2013 に加筆)

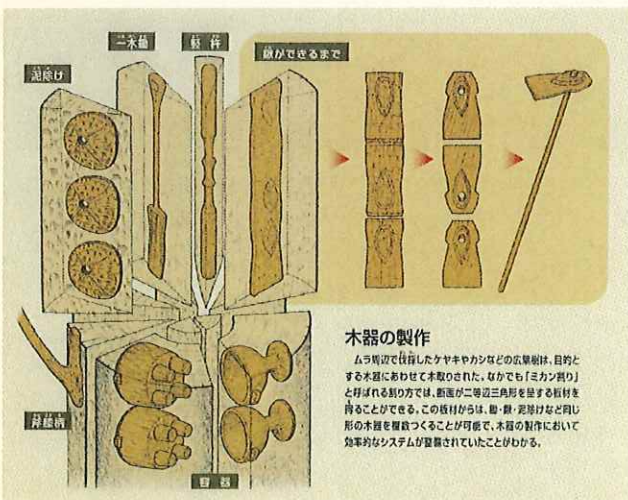


図4 木取りの方法 (田原本町教委 2004)

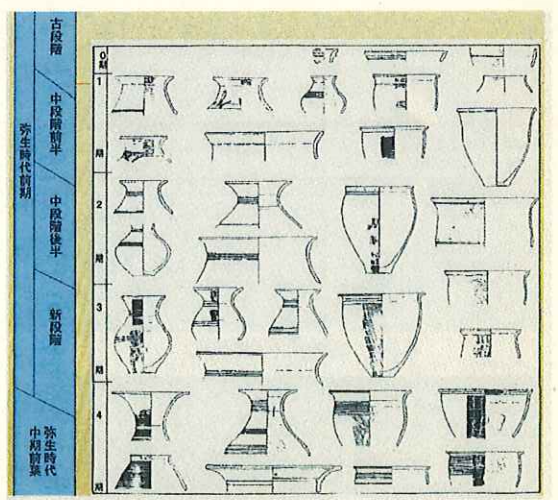


図5 堅田遺跡出土土器の編年 (川崎 2013)

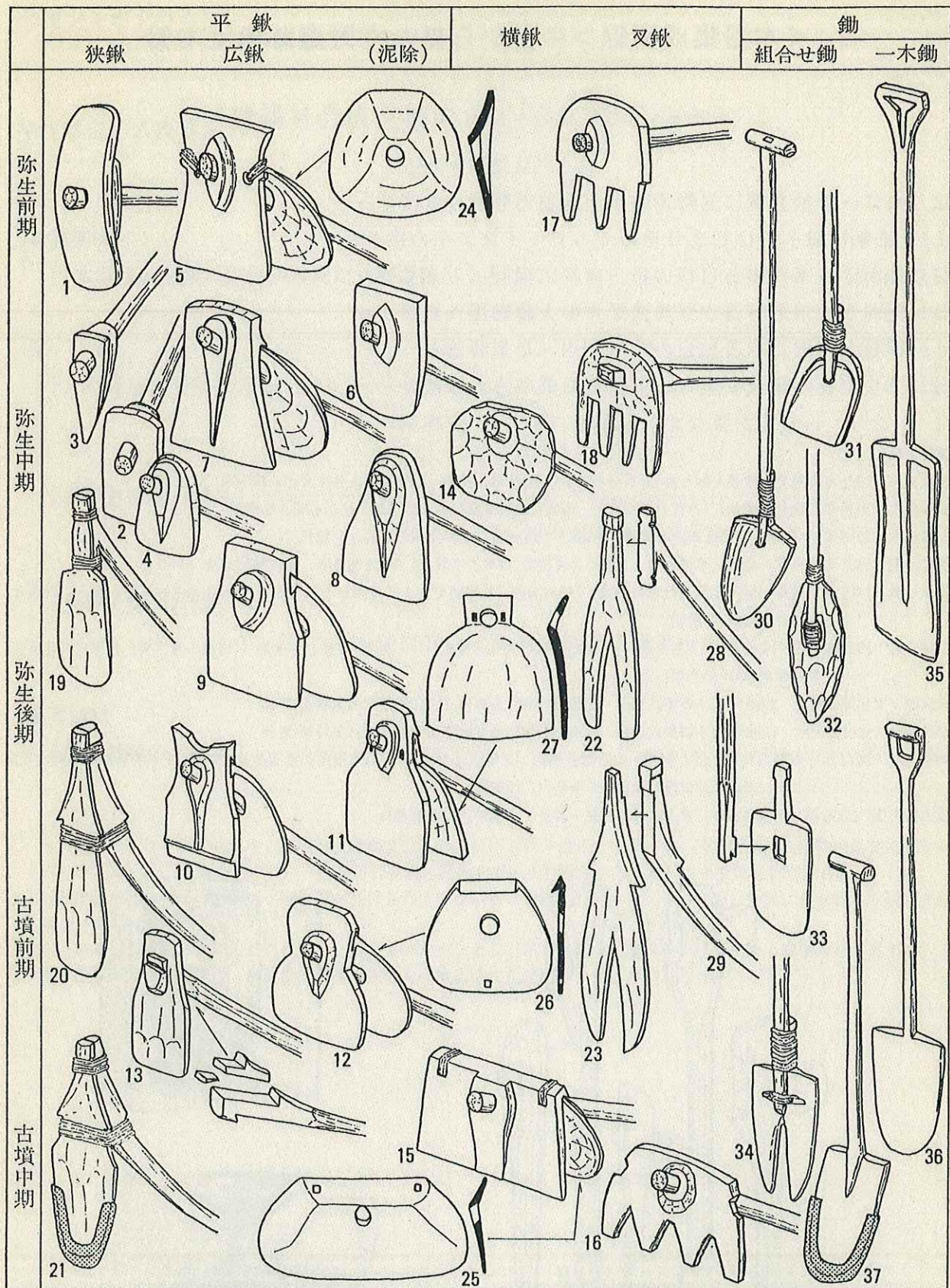


図3 弥生～古墳時代の近畿地方における鋤と鋤の変遷概念図[上原 1991]

1狭鋤Ⅰ式, 2狭鋤Ⅱ式, 3狭鋤Ⅲ式, 4狭鋤Ⅳ式, 5広鋤Ⅰ式, 6広鋤Ⅱ式, 7広鋤Ⅲ式, 8広鋤Ⅳ式, 9広鋤Ⅴ式, 10広鋤Ⅵ式, 11広鋤Ⅶ式(北陸型), 12広鋤Ⅶ式, 13狭鋤Ⅱ式(九州型), 14横鋤Ⅰ式, 15横鋤Ⅱ式, 16横鋤Ⅲ式, 17・18直柄又鋤, 19膝柄平鋤, 20反柄平鋤, 21反柄平鋤(風呂鋤), 22膝柄又鋤, 23反柄又鋤, 24泥除Ⅰ式, 25泥除Ⅱ式, 26泥除Ⅲ式, 27泥除Ⅳ式, 28鋤膝柄, 29鋤反柄, 30・31組合せ式屈折鋤, 32・33・34組合せ式直伸鋤, 35・36一木式直伸鋤, 37一木式屈折鋤

図6 弥生～古墳時代の近畿地方における鋤と鋤の変遷概念図(※上原 2013)

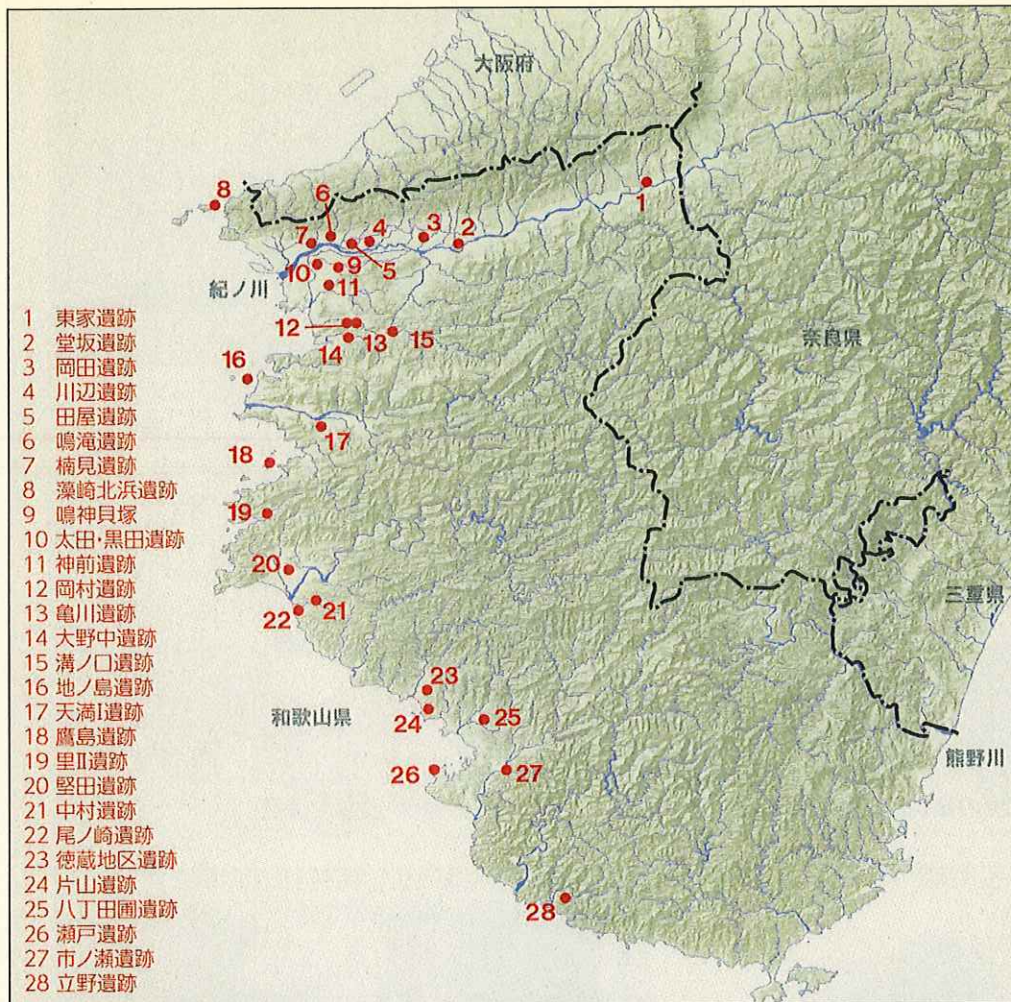
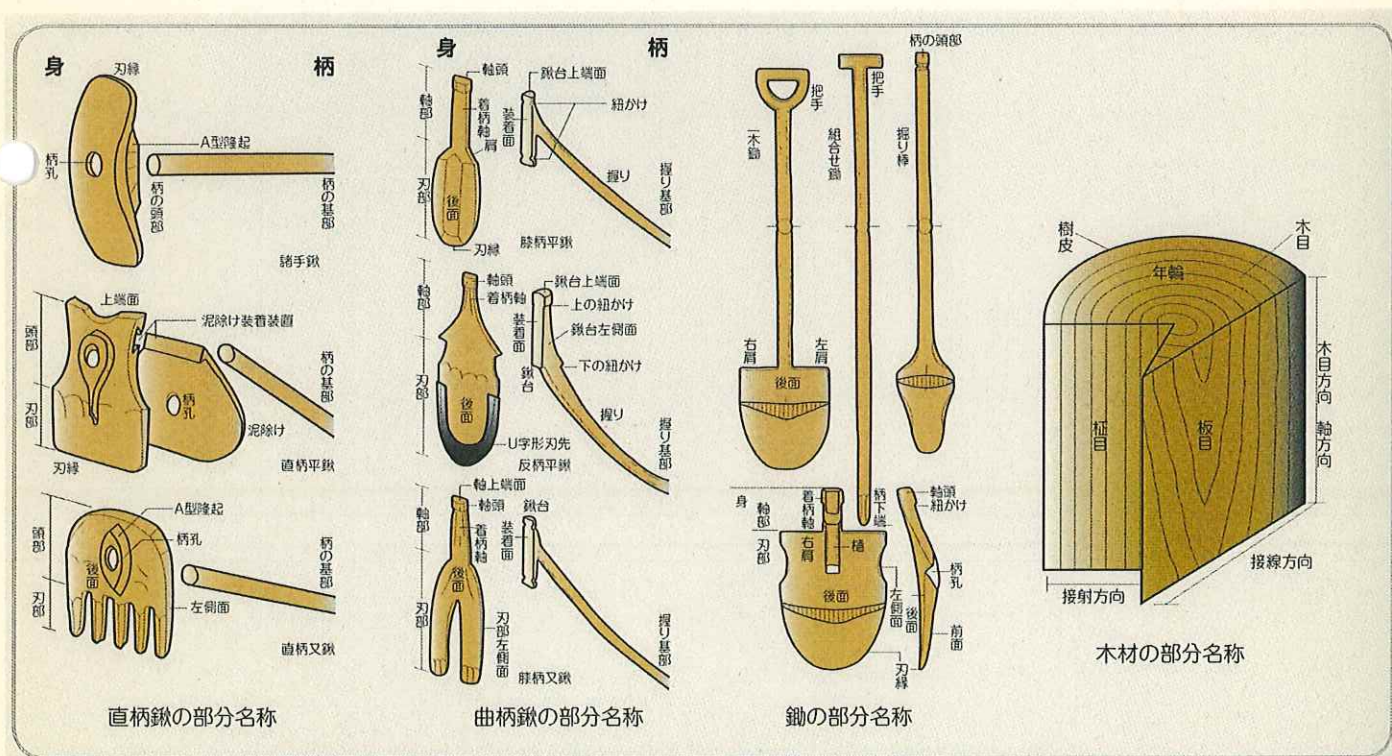


図8 県内の弥生前期の遺跡分布

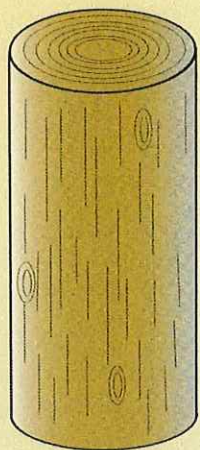
(和歌山県立紀伊風土記の丘 2012 『紀伊弥生文化の至宝』より転載)



⑥ 農耕具の部位名称と木材各部名称 (上原 1993・樋上 2011 を元に再トレース)

図9 農耕具の部位名称と木材各部名称

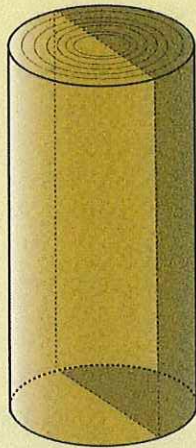
(大阪府立弥生文化博物館 2012 『穂落とし神の足跡』より転載)



①直径20cm以上の
中・大径木より長さ1
~3mほどの丸太を
切り出す
(この段階で水漬け
して乾燥させる)



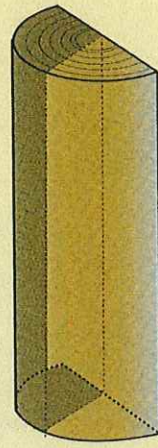
白・柱材
などへ



②丸太を縦で
縦に2つに割る



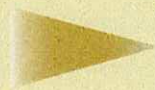
容器(槽
・高杯)
などへ



③2分割した丸
太をさらに2つ
に割る



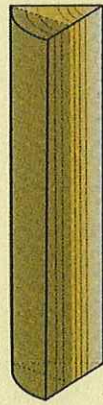
縦杵・縦
斧柄・ヨ
コヅチ・
容器・柱
材などへ



④4分割した丸
太をさらに2つ
に割る



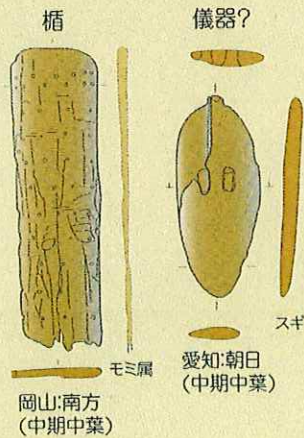
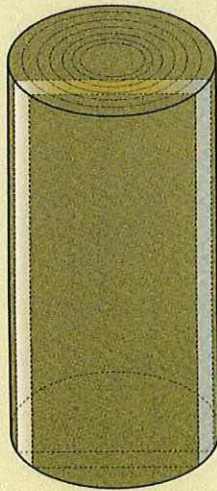
原材として他
の集落へ搬出



⑤木の外側
を斜めに削り
とる

連続製作の鋏、
一木平鋤、床・
壁・扉材などの
構造材へ

広葉樹材 中・大径木の製材・利用方法



盾や儀器の製作

針葉樹材 中・大径木の製材・利用方法

⑧ 弥生時代の木材製材方法 (樋上 2011 を元に再トレース)

図 10 弥生時代の木材製材方法

(大阪府立弥生文化博物館 2012『穂落とし神の足跡』より転載)

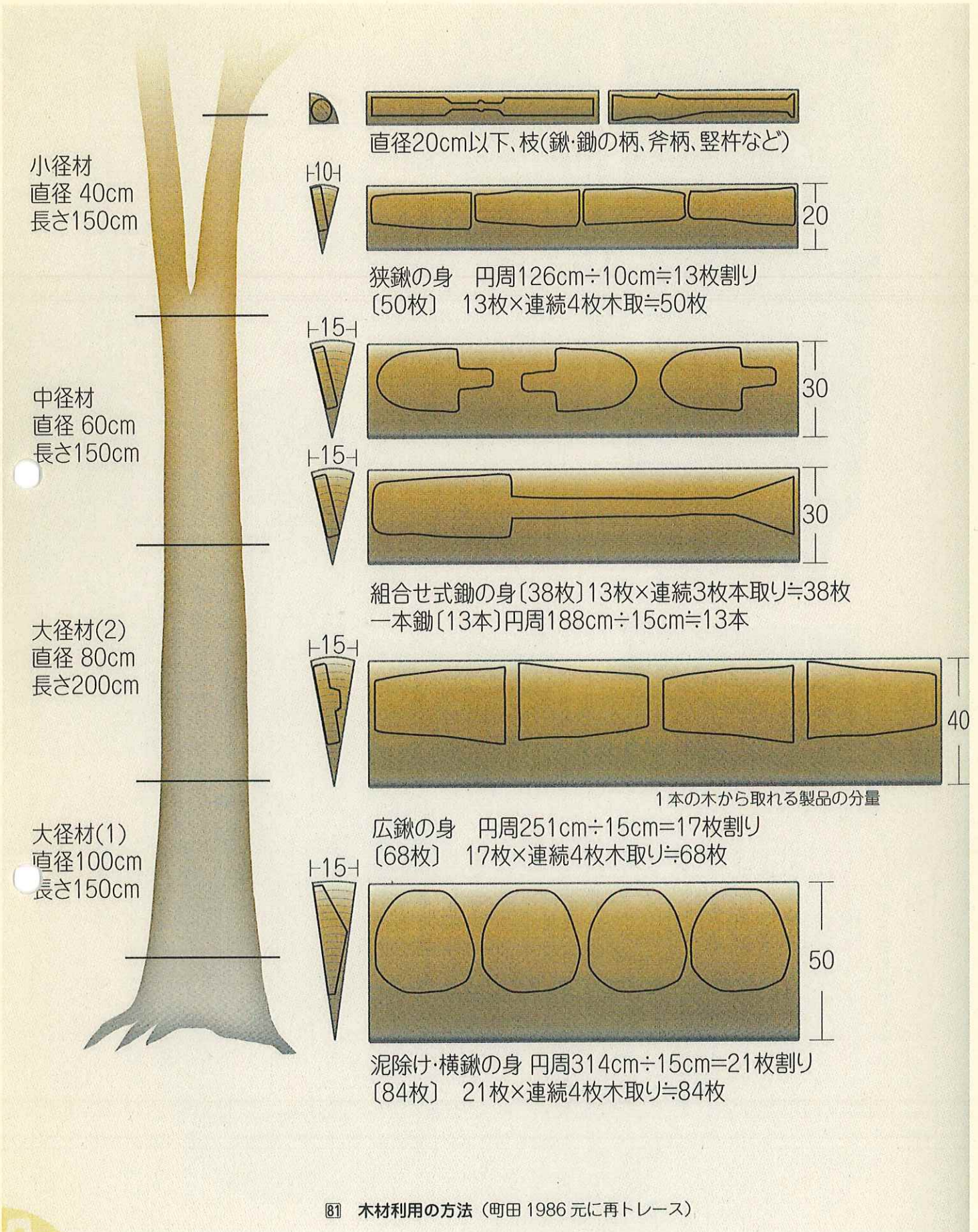


図 11 木材利用の方法

(大阪府立弥生文化博物館 2012 『穂落とし神の足跡』 より転載)